

# 1. 私たちの出発点

## 第一の出発点

今から25年前、国鉄改革によりJR東日本は誕生しました。改革当時にはまだ生まれていなかった世代が入社してくるほどの長い時間が経過しました。しかし、国鉄改革は、私たちの変わらぬ「出発点」です。

- ◇自ら考え自ら行動し、自主自立経営を貫く
- ◇それぞれの地域に密着した経営を行う
- ◇時代や環境の変化に柔軟かつ迅速に適應できる企業をめざす

国鉄の失敗を繰り返さないために、これらの改革の目標を深く胸に刻み、そしてお客さま、地域の皆さまをはじめとする周囲のご支援を忘れることなく、企業経営の原点としていきます。

## 第二の出発点

そして、会社発足から約24年が経過した2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。新幹線をはじめとして、多くの路線で長期間の運休を余儀なくされ、様々な設備が被害を受けるとともに、ご利用のお客さまも大きく減少しました。そして何より、震災は、私たちが事業を行っている多くの地域に甚大な被害を及ぼしました。

こうした状況の中、私たちは、関係の皆さまからの多大なるご支援により、困難を乗り越えることができました。そして、私たちは、震災の経験を通じて、自らの使命を再認識するとともに、多くの教訓を得ました。

- ◇私たちが行っている「仕事」の意味とその重さ
- ◇お客さま、地域の皆さまから寄せられる、当社グループへの大きな期待
- ◇震災への対応と復旧に示された、一人ひとりの社員の力
- ◇毎日の地道な取り組みや訓練の大切さ

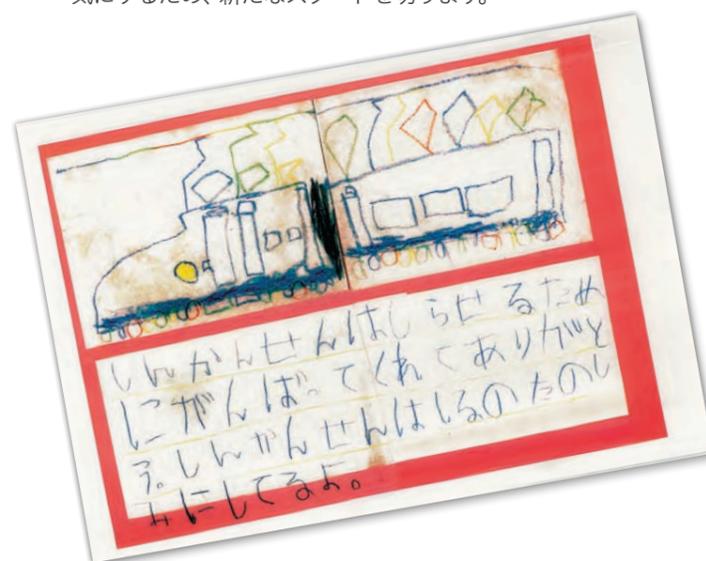
また、東日本大震災により、経営環境は大きく変貌しました。震災からの復興はまだ道半ばであり、少子高齢化や国内産業の空洞化、地方経済の疲弊など、従来からの課題も震災を契機にあらわになり、その速度も増えています。さらには、福島第一原子力発電所事故や長期化する電力不足問題など、新たな課題への対応を迫られています。

私たちは、2011年3月11日を「第二の出発点」と位置づけ、鉄道という社会インフラを担う企業として、どのような役割を果たし、何をめざして進化を遂げていくのか、もう一度自ら問い直さなければなりません。

## 新たな経営構想の策定

こうした認識に立ち、私たちは、今回、通算5回目となる経営構想「グループ経営構想V<sup>アップ</sup> ～限りなき前進～」を策定しました。策定にあたっては、2012年4月に発表した「今後3年間(2012～2014年度)の重点課題」をベースとし、2020年頃までの社会環境の変化を見据え、経営の基本的方向性と具体的に実行していくことをまとめました。

全社員が一丸となって東日本大震災という試練に立ち向かった「自信と誇り」を胸に、様々な課題に挑み、私たちの事業の存立基盤である東日本エリア、そして日本を元気にするため、新たなスタートを切ります。



東日本大震災後、新幹線が運休していたときに仙台在住の新幹線や電車が大好きなお子さまからいただいた応援のお手紙



震災から1年を迎える時期に作成した「TOHOKU MY LOVE」のポスター



東北新幹線全線運転再開時に作成した「つなげよう、日本。」のポスター